

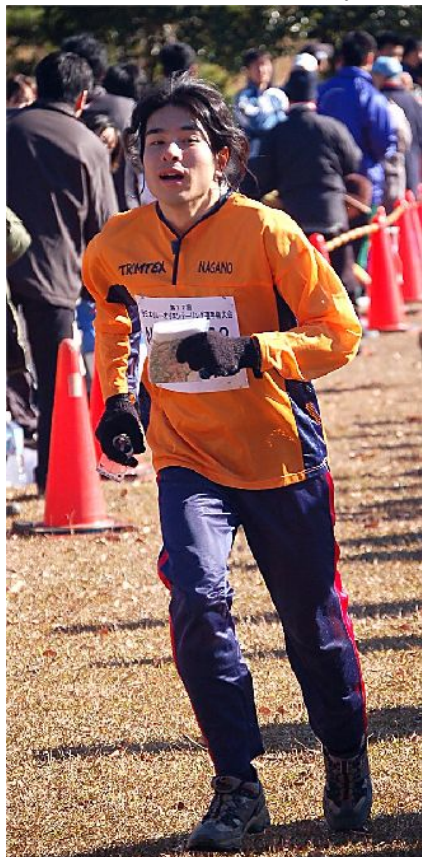
全日本リレーオリエンテーリング選手権大会 2008年12月7日 三重県津市

全日本リレー大会に開催県である三重県チームは参加していない。さみしくもあるが、それは三重オリエンティアが全員おもてなしに回った結果だ。

2008年12月7日 三重県津市
全日本リレーオリエンテーリング選手権

面白かった

「面白かった」これが全日本リレー2008を終えた私の感想だ。それは全日本リレー大会を中心とした長野県チームのストーリーを存分に楽しんだ満足感だ。都道府県単位で参加する全日本リレーならではの楽しさだろう。



会場スペクテーターズレーンを走る鈴木慎一郎（ME長野2チーム1走）
コースは前半と後半に分かれ、中間で各都道府県応援団の待つ会場の中を駆け抜ける。

氷点下の木曽路

全日本リレー前日、木曽の山奥を車で走っていた。早朝に訪れた観光地「寢覚ノ床」には誰もいない。木曽川の河



全日本リレー大会選手権クラスのスタート風景。広大な広場に横一列に選手が並んでスタート。カメラのフレームに収まりきれないほど。

原に下ると岩が凍結して川に落ちてしまいそうだ。雪も舞いはじめた。

木曽でメンバーをピックアップ。木曽を抜けると空は一気に明るくなり、伊勢湾岸道では晩秋に季節は戻っていた。

セレモニーの重要性

辿り着いた開会式会場はとても立派な施設・・・の小ホール。開会式が進むにつれ、全国の都道府県と競い合うことの期待感が高まる。そしてテクニカルミーティングで競技の意識が高まってゆく。長野県チームでは毎回開会式に出来るだけ多くの選手を参加させてもらっている。

「全日本リレー面白いですね」

今回はじめて全日本リレーに参加してくれた鈴木君が、レースがすべて終わった帰り道で私に話してくれた。

「それは開会式がきちんと行われるからそう感じるんじゃないかな。前日から意識が高まってくる効果は大きいと思うよ。」

恒例・合同ナイトラン

津駅前ホテルに着くと、すぐに有志でナイトランに出かける。いろんな人でも走れるように距離は短め、ゆっくりと走る。藤堂高虎ゆかりの津城跡までの往復3.5kmをヘッドランプ点けてナイトラン。結局、長野県選手団全員が走った。

普段あちこちに住んでいる者たちがこうして一緒に走るのも楽しい。このナイトランはほぼ毎回企画されている。もう10年ほど続いているだろうか。



男子シニア選手権で優勝した大阪府1のウイニングラン

松阪牛とミーティング

前日ミーティング。ここでナンバーカードやE-cardを選手に配布する。だが宿泊しているホテルの食堂では某大型県が貸し切りでミーティングが始まっていた。

そこで繰り出したのが焼肉屋。松阪牛を食べつつミーティング。メンバーがほろ酔いになり始めたので、ナンバーカード、E-cardは回収し、翌日会場で再配布することに。回収された長野県のナンバーカードとE-cardはS君に託された。気分が良くなったところでホテルに戻ったが、まだ何軒か回った連中もいたらしい。



東青山駅前にある「四季のさと」看板。まさに駅前テレイン。(長野県チーム)

何軒目かの店「COCO 壺番館」を出たとき店員さんが慌てて忘れ物を届けてくれた。その忘れ物とはナンバーカード、E-cardが入った袋！ あぶない・あぶない。今回の長野県チームの MVP は「COCO 壺番館」の店員さんに決定した。



テレイン内には近鉄大阪線の旧線跡が残る。廃墟マニアでは有名な場所。写真はレース後に訪れたテレイン内の旧総谷トンネル。1971年に列車衝突事故を起こし、死者25名重軽傷者200名以上を出した場所。この事故により近鉄は新線路開発を早めた。

駅前テレイン

会場となった「四季のさと」は山の中の公園。しかし近鉄「東青山駅」の目の前。駐車場も広い。広い芝生広場がありそのすぐ隣にテレインが広がる。これほど素晴らしいロケーションをもつテレインは他ではあまり見られない。

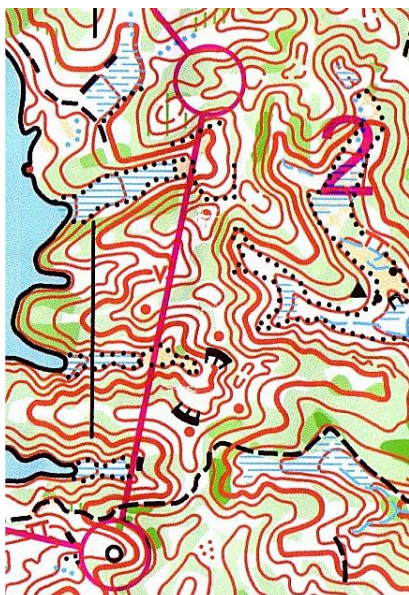
大会当日は雲ひとつない日本晴れ。12月にしては暖かく、風もない絶好のアウトドア日和。広大な芝生広場の会場に各都道府県チームのテント村が出現した。

各チームの1走が横一列スタート。広いスペースを使った会場レイアウトに工夫が見られる。

荒れるレース

会場内スペクテーターズレーンを選択者が駆け抜けてゆく。会場内からチームメイトに声援が飛ぶ。だが1走前半にして、ずいぶんと差が開いた。コースの前半部分の難易度が高く、一般的に荒れた展開になった。

わが長野県チームもこのコースに翻弄された。中間コントロール通過時刻があまり予想できない。コースひとつひとつはとても面白いが、リレー全体で考えると、もう少し難易度を落としたほうが良かったと感じる。



コース前半に出現する微地形地帯。見通しの利かないテレインをナビゲーション。主催者の努力により、これを支える正確でよく調査された地図が準備された。今回はじめてO-map化されたテレインである。今後大いに利用されるだろう。

アフターO

完全ではないにせよ、長野県は全般的に予想以上の成績を残した。マイカーなので残念ながら打ち上げの乾杯はできない。その代わりにテレイン最寄の榊原温泉に行き、レースの疲れを癒す。

開会式、ナイトラン、松阪牛、東青山の素敵な森、榊原温泉、二日間でおなかいっぱいになるほど三重を楽しんだ気がする。



スーパーベテランクラス(XV)で優勝した愛知1チーム。1走・小幡昭次から2走・新見守へチェンジオーバー

素晴らしかった大会

残念ながら主管県の三重はスタートラインに並ぶことは無かった。全国からの参加者を迎えようと、三重県下のオリエンテーリング愛好家全員がこのイベントの運営に当たっているからだ。

全国競技会レベルの運営ノウハウを学ぼうと、三重県では1年前から電子化された結果処理に取り組んでいたことも知られている。

こうした三重県のおもてなしの心で楽しいイベントに参加することができた。

だがこうした「おもてなし開催」、1回は開催できても2回、3回は厳しい。やはり主管県には参加という形で力を発揮して欲しいと思うとともに、主管県も全力で参加できるような方法はないものかと思った。

(木村佳司)